





# 審査結果報告書

2023年 / 月 23日

主査氏名 辻 尚利 

副査氏名 加藤 一喜 

副査氏名 石山 博稜 

副査氏名 思城 正行 

1. 申請者氏名 : DM19004 大橋 慶久

2. 論文テーマ :

Correlation between CD163 expression and resting pain in patients with hip osteoarthritis: Possible contribution of CD163+ monocytes/macrophages to pain pathogenesis

(変形性股関節症患者における滑膜 CD163 陽性マクロファージサブセットの疼痛病態への関与の検討)

3. 論文審査結果 :

申請者は、変形性股関節症患者における滑膜 CD163 陽性マクロファージサブセットの疼痛への関与を検討し、以下のことを見出した。1. *CD163* の発現と安静時痛 VAS 間に有意な相関があった。2. CD163+分画における *C14*、*CD206*、*IL10*、*TNFA* 及び *IL1B* の発現は CD163-分画より有意に低値であった。3. フローサイトメトリー解析から、CD163+CD14<sup>low</sup> 細胞及び CD163+CD14<sup>high</sup> 細胞を認め、両サブセットの大半は CD2067+細胞であることを見出し、加えてセルソーティング解析から CD163+CD14<sup>low</sup> 細胞における *TNFA* 発現は CD163+CD14<sup>high</sup> 細胞に対して有意に高値であった。以上の成績から、TNF- $\alpha$  を高発現する、CD163+CD14<sup>low</sup> 細胞は変形性股関節症における安静時痛の病態に関与していることが強く示された。変形性股関節症では滑液中の CD163 濃度と X 線学的重症度との間に正の相関関係がある。本研究成果は、CD163 陽性(+)マクロファージと変形性股関節症疼痛との関連性及びその病態解明に大きく寄与することから、医学・医科学の発展に多大な貢献をもたらすものと判断できる。よって、審査委員全員一致で本論文が博士(医学)の学位論文として十分価値があると認めた。